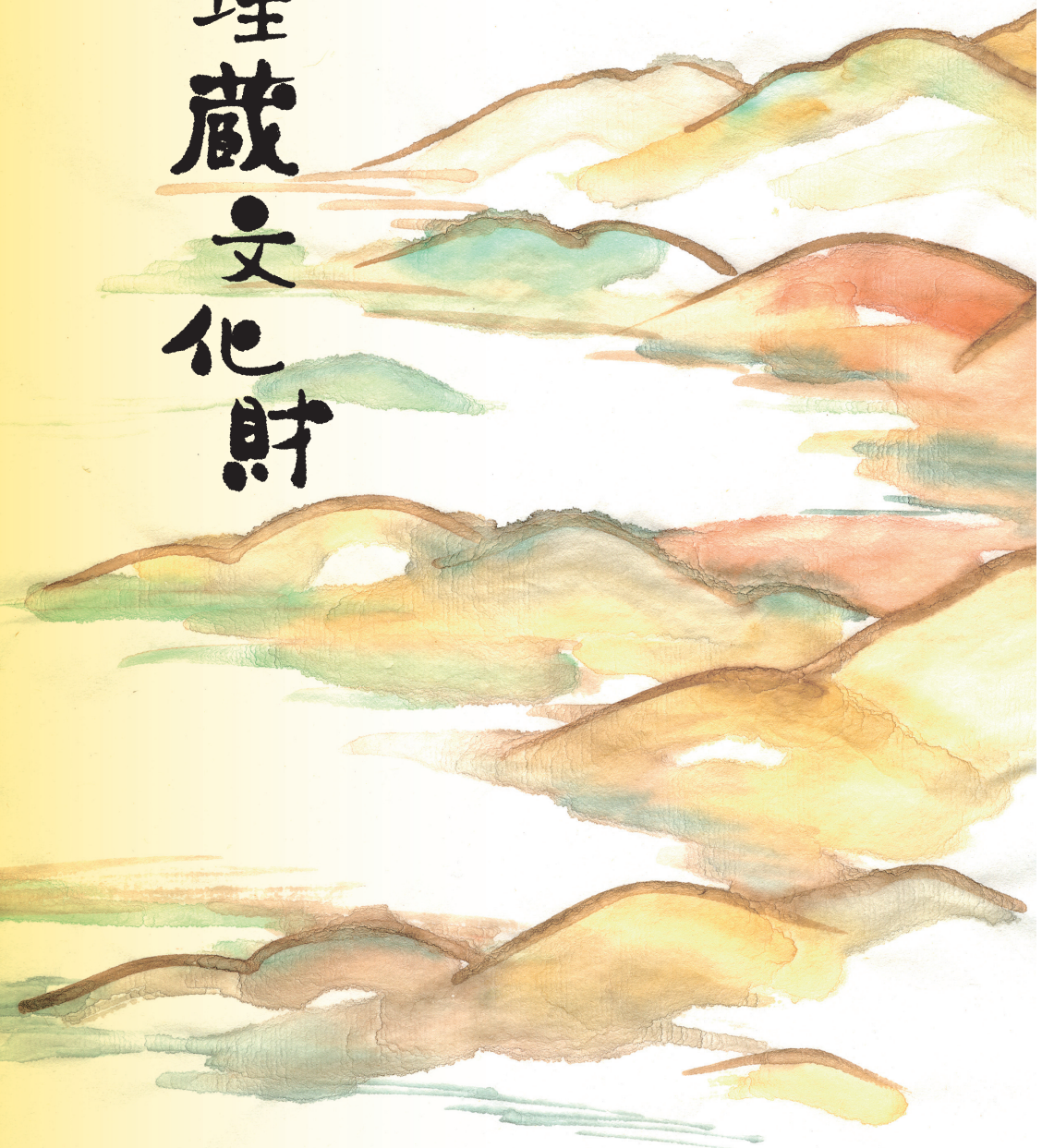


埋藏文化財



聖籠町の遺跡

人間はさまざまな活動をしてきました。狩猟、採集、食べる、捨てる、作る、祈るなど、基本的には今も昔も変わりません。こうした活動の跡や物が地中に残され、長い年月を経て遺跡になります。

44ページは、聖籠町で確認されている遺跡の一覧とその位置です。
平成二十六年四月現在で四六カ所の遺跡が見つかっています。

縄文時代 およそ一万二千年前から約一万年間続いた時代です。粘土を焼いて作った土器が発明され、煮炊きをするよ



縄文時代の想像図

うになります。おかげで、食べられる植物や魚貝類がたくさん増えました。土器の形や用途はさまざままで、見た目にもおしゃれなものが多いです。縄を転がしてつけた「縄文」の模様は、日本列島で大流行しました。

住むところも変わります。それまでは洞穴やテントのようなものに住んでいましたが、家のような建物で暮らしはじめました。地面に穴を掘って柱を立て、アシ等の植物で屋根や壁をおおったたてあな竪穴住居です。

町内でこの時代の竪穴住居跡はまだ確認されていませんが、縄文土器が見つかった遺跡は約二〇カ所あります。



聖籠町出土の石器（石の矢じり）



縄文時代の土器

今のところ最も古いものは二本松東山遺跡で、縄文時代前期（約五千年前）の土器が見つかりました。いっぽう、弁天瀉べんてんがたに隣接する瀉尻遺跡かたじり、蓮野Ⅰ遺跡では後期（約三千五百年前）の土器が見つかり、住む場所が転々と変わっていったことがわかります。

弥生時代 約二千三百年前、大陸から来た人々が米作りの方法や金属の道具を伝えました。稲作が広まると、人々の暮らしに変化が出てきました。夏は水田を管理し、冬は保存しておいた米を食べられるのであまり移住をしなくなります。

やがて稲作で多くの蓄えができるようになると、人口が増え、貧富の差ができて力をもつ人がでてきます。争いがおき、集落にもだんだん防衛的な機能が備わってきます。争いで勝った有力者は人々を統率し、国のようなまとまりができました。

町内では二本松東山遺跡や山三賀Ⅱ遺跡やまさんかⅡで、弥生土器がわずかに見つかっただけで、住居跡

などは残念ながら見つかっていません。

古墳時代 畿内きないの大和やまとを中心として、列島がほぼ一つの政治体制に統合されました。各地の有力者（豪族）は、自分の力の大きさを示すために、大きな墓（古墳）を造りました。大陸との交流も盛んで、ロクロで成形かまし窯かまで焼いて作る土器、須恵器すえきがもたらされました。須恵器を作る技術は、古墳を飾る埴輪はじわづくりにも応用されます。



二本松東山遺跡の墓



古墳時代の土器

二本松東山遺跡では、周りに溝を掘り、中央に砂を盛った、直径約二〇mもある大きな墓が発見されました。当時この地域に有力者がいたのでしょうか。墓の近くから堅穴住居が三棟見つかります。墓の主のすまいであったかどうかはわかりませんが、聖籠町域で人々が行き来し、生活していたことは間違いありません。



堅穴住居跡

です。土器、漁具のほか、当時の役人と関係のある道具などが見つかったということでも注目を浴びました。

この山三賀Ⅱ遺跡をはじめ、真野まのから諏訪すずわ山やま、山三賀、二本松にかけての砂丘上には古代の遺跡が数多く並んでいます。当時たくさん集落があり、人々でたいへん賑わっていたでしょう。

集落跡だけではありません。東港湾内に没しましたが、専門的に塩を作っていた遺跡がありました。海水を入れて煮詰めるための製塩土器が見つかります。

古代 考古学では奈良・平安時代（約千三百〜八百年前）をまとめて古代といえます。聖籠町のほとんどの遺跡から、古代の土器が見つかります。

やまさんがに 山三賀Ⅱ遺跡は新新バイパス聖籠インターチェンジほったてばしら付近にあった遺跡で、堅穴住居や掘立柱建物が多数見つかった、県内でも有数の古代集落遺跡



山三賀Ⅱ遺跡



古代の土器



古代の製塩風景想像図

山や海の資源から製品をつくり、役人の管理の下で流通させるといふように、人々がお互いに生活を支え合っていた様子が伝わってきます。

中世 平安時代終わりから江戸時代の前までを指します。

す。発掘調査の対象になるのは、たいてい中世以前の遺跡です。

町内の中世の様子は、実はよくわかっていません。出土している土器が少なく、建物跡も確認されていません。なぜでしょうか。

新潟県域では平安時代中頃から、人々が砂丘を下り周辺の低地に住むようになります。町内でも同様に集落が低地に移ったとすれば、現在の集落

や水田、川の下に埋まることになるので、遺跡が見つけにくいのかもかもしれません。また、土器に代わり木製のお椀や鉄の鍋などが多用されるようになったことも、遺跡が見つけにくい原因の一つです。木製品や鉄は、腐ったり錆びたりして残りにくいのです。

古文書や古地図などによると、次第浜しだいばまや亀塚浜かめづかばま（東港建設で移転する以前の亀塚）の集落がこの頃からすでに存在していたことがわかりますが、それ以外のことはまだ謎に包まれています。

中世のように文字による記録が残っている時代ですら、人々がどのような環境の中で、どのような暮らしをしていたかなど、わからない点はたくさんあります。まして文字のない時代のことならなおさらです。埋蔵文化財は、こうした文字に残されていない事柄を知る手がかりになります。

わたしたちの暮らしを豊かにしてくれる文化財。大切に後世まで伝えていくのが、今を生きる私たちの責務です。

聖籠町の地形

聖籠町は日本海に面する町で、浜辺には砂浜が広がっています。海岸の砂が風によって運ばれて積もったものを砂丘といいます。聖籠町は大半が砂丘の上にある町だと知っていましたか!?

新潟砂丘

左ページ上図は聖籠町の地形図です。次第浜、亀塚、網代浜はもちろんのこと、内陸側の真野や諏訪山、二本松、藤寄なども砂丘の上にある集落なのです。左ページ下図は聖籠町を含めた越後平野の地形図です。砂丘は帯状となり北東―南西方向にのびています。この砂丘は新潟砂丘と呼ばれています。

新潟砂丘は北東側が村上市、南西側が角田山麓まで続く総延長約八〇kmにもおよぶ日本海側最大の砂丘です。聖籠町の砂丘もこの新潟砂丘の一部にあたります。この新潟砂丘は実は一本ではなく、複数の砂丘の帯からできています。聖籠町付近で

は最も多く一〇本の砂丘列となっています。

最も内陸側の砂丘は桃山や本大夫、本諏訪山付近で、現在の海岸線からは五km以上も離れています。しかし、河川で削られたり埋没し、現在の砂丘は帯状ではなく点在して残っています。

新潟砂丘のなりたち

約六千年前、世は縄文時代と呼ばれる時代でした。この頃は海水面が現在よりも二―三mも高く、聖籠町を含む越後平野は海や湖となっていました。

時を同じくして、越後平野を閉じる防波堤のように砂が帯状にたまり始めます。これがしだいに大きくなって砂丘となりました。その後、砂丘は海側にだんだんと大きく広がり、やがて現在の海岸線の位置になりました。内陸側は、信濃川や阿賀野川などが運んできた土砂により湿地帯となり、しだいに陸地へと変わっていきました。

六千年の昔、私たちの住んでいるこの聖籠町は海の底でした。その後、砂丘が広がり、縄文の人々が住み始め、そして現在に至っているのです。

- 沖積地
- 砂丘
- 自然堤防
- 湿地
- 河川・湾港

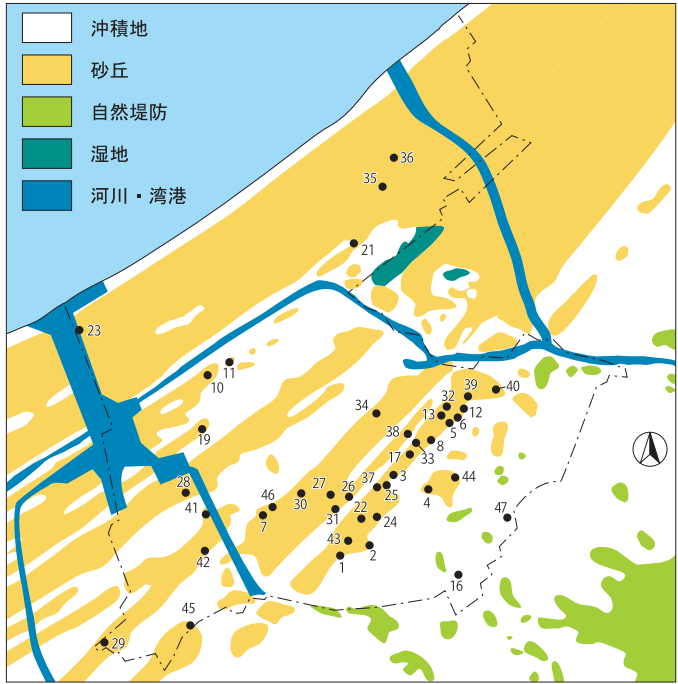


聖籠町の地形

- 沖積地
- 砂丘
- 河川・潟湖
- 山地・丘陵・段丘



越後平野と
周辺山地の地形



遺跡一覧

番号	遺跡名	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代中世
24	山三賀Ⅱ遺跡	○	○	○	○
23	東港亀塚遺跡		○	○	○
22	追分遺跡	○			
21	前畑遺跡	○			
20	元八幡遺跡	○			
19	別行遺跡	○			
18	丸山遺跡	○			
17	諏訪山Ⅰ遺跡	○			
16	本三賀遺跡	○			
15	中ノ橋遺跡	○			
13	山下遺跡		○		
12	丸潟飛地屋敷遺跡				
11	道下遺跡				
10	下新田遺跡				
9	替地遺跡				
8	木ノ株遺跡	○			
7	運野Ⅰ遺跡	○			
6	桃山遺跡	○			
5	金港遺跡				
4	聖籠観音遺跡	○	○	○	○
3	山大夫遺跡	○	○	○	○
2	山三賀Ⅰ遺跡	○	○	○	○
1	二本松遺跡	○	○	○	○
36					
35					
21					
11					
10					
19					
28					
41					
42					
45					
29					
7					
46					
30					
27					
26					
37					
25					
24					
48					
1					
2					
43					
44					
47					
16					
4					
39					
40					
32					
33					
38					
13					
17					
34					
3					
5					
8					
12					
13					
17					
25					
26					
31					
37					
44					
47					

番号	遺跡名	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代中世
47	菖蒲沼遺跡			○	○
46	湯尻遺跡	○		○	○
45	佐々木山遺跡	○		○	○
44	諏訪浦遺跡	○		○	○
43	二本松東山遺跡	○		○	○
42	御山下遺跡	○		○	○
41	坊主山遺跡	○		○	○
40	真野Ⅱ遺跡	○		○	○
39	真野Ⅰ遺跡	○		○	○
38	稲の平遺跡	○		○	○
37	聖籠山遺跡			○	○
36	次第浜遺跡			○	○
35	雨池遺跡			○	○
34	山倉遺跡			○	○
33	諏訪山Ⅱ遺跡			○	○
32	長山辺遺跡			○	○
31	正庵Ⅱ遺跡			○	○
30	三辺遺跡			○	○
29	藤寄遺跡			○	○
28	連野Ⅱ遺跡		○	○	○
27	正庵Ⅰ遺跡		○	○	○
26	正庵Ⅱ遺跡		○	○	○
25	山緑遺跡		○	○	○

※14は欠番

(平成二十六年四月現在)